

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人友田久米治、同野村均一、同大和田安春の上告趣意について。

論旨引用の大審院判例は本件と事案を異にし適切でなく、所論判例違反の主張はとることができない。（原判決が、その認定の事実関係にもとづき、本件被告人の所為をもつて、刑法九六条所定の「公務員の施した差押の標示を無効ならしめた罪」にあたるものとした判断は正当である。）

また記録を調べても刑訴四―一条を適用すべきものとは認められない。

よつて同四―四条、三九六条により裁判官全員一致の意見で主文のとおり判決する。

公判出席検察官 玉沢光三郎

昭和三六年一〇月六日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	藤	田	八	郎
裁判官	池	田		克
裁判官	河	村	大	助
裁判官	奥	野	健	一
裁判官	山	田	作	之 助